2309 Studying for the TOEFL(R) Test　中級

【学習内容】
2013 年４月の自民党教育再生実行本部の発表により、近い将来高校生、大学生、英語教師、国家公務員を含め、あらゆるレベルの日本人の英語運用能力を測る基準として TOEFL が導入され、各段階で一定のスコアが要求されることになるだろう。この中級レベルは、大学での海外留学や上智大学国際教養学部（FLA）進学を目的にする高校生、大学生、帰国生（英検準一級程度保持者）に照準を合わせ、上級レベルよりも基本的な説明に力を入れる。（海外）大学院を目指す学生、社会人はこの中級ではなく、上級レベルに登録してほしい。二年生で交換留学に応募する上智大生には、一年生の間に受講することを強く勧める。留学計画が現時点でない受講生も、クラスメートより高得点を「先取り」できるという意識を持って受講してほしい。なお TOEIC と違い、TOEFL iBT は自習が非常に難しい試験である。TOEFL はアカデミック英語で「知の格闘技」をすることである、と考えること。

英語圏のアカデミック英語の標準がどのようなものかを理解するには、ETV（NHK E テレ）でなるべく多くの「スーパー・プレゼンテーション、白熱教室」にいちはやく触れ、TED のスピード、説得力、論理展開の手法にも充分に慣れておくなど、自助努力を今から始めてほしい。また、2014 年春から英国留学申請に TOEFL スコアが提出できなくなったが、このクラスからは終了後に IELTS で十分に好成績を上げた受講生を複数出した。英語と米語での論理の展開の仕方について現時点でまだ知らないのであれば、TOEFL コースで英国留学の準備をすることも、一つの選択肢として考えてほしい。

従来の学校英語は、英語運用能力（読み、話されたことを聞いて理解し、話し、書く）全般を総合的、公平に評価する iBT に太刀打ちできるアカデミック英語、それを自在に操る能力を身につけてくれてはいない。各人の現在の英語レベルから、目指す（北米）大学が要求する最低スコア（iBT61 点以上相当）をクリアするために、能率・効率の高い方法を模索し、具体的に援助する。慣れること、習うこと、覚えることが多いので、早口で講義する。英文法基礎（中学三年間の復習）をまず確実に固めて後、ようやく英語運用は可能となる。懇切丁寧に間違いを教師に指摘、訂正されずに、どうにか通じれば良しとしてザッと流してしまう英語（会話）クラスでは、運用能力は身につかない。コース終了後丸一年、せめて半年を iBT 受験準備に当てること。留学先で高レベルの講義を理解し、単位・学位を取得するために「英語圏で認められるアカデミック英語」で口頭発表をし、エッセイ・論文を書いて期限内に提出することは、決して生易しいことではない。アカデミック英語を確実に身につけ、駆使できてこそ将来国際舞台で対等に扱われることを理解し、iBT 受験後の人生設計を高所から見、逆算して（海外）大学進学を計画してほしい。

【学習方法】
教科書の四分野の例題を、体系立てて体験する。苦手な分野がどれか自覚し、そのスキルを包括的、重点的に復習する。高レベル語彙・表現・関連概念も紹介する。それらを記憶に定着させ、自在に使いこなす方法も教授するので、ノートを几帳面に取る。ただし、日本人が陥りやすい「重箱の隅をつつく」ような文法分析は時間の無駄なので、練習問題を一冊分体験することにまず集中する。様々な速度と多様な発音に慣れ、理解が難しい質問形式もマスターする。大学・大学院生活で使用する口語表現、キャンパス用語、講義に特有なアカデミック表現に種々の専門分野での用法を通して慣れる。受験に近い条件で模擬テストを体験し、iBT 受験の感覚を身につける。直後に答え合わせをし、間違いやすい点の解説をする。予習ではなく、復習に十分に力を入れること。

【学習形態】
授業は総て英語で行うが、質問は日本語でもかまわない。一回 1 時間 30 分、計 13 回の講義というチャンスを生かし、模擬試験、演習、講義、質疑応答でだれないようにリズムをつける。英語圏の大学でのインタラクティブ（受け身でなく相互作用的）な教授法、学習形態に慣れる。

【受講者に期待する到達レベル】
四セクション各 30 点、120 点満点の iBT に、レベル・分野を問わず受講生を短期間で間に合わせる。目標は iBT80 点以上だが、iBT37 点相当が現在まで報告された上昇最高点で、多数が iBT89 点以上をコース終了後に得点している。留学後は質疑応答、口頭発表、大量の資料リーディング、膨大な数のペーパーに四苦八苦することになる。英語運用能力全般、受けた教育と人間性、教養の総てがライティングに如実に現れる。ライティングをまず「決める」ことで留学生としての面目を保ち、学位・資格取得を確実にしてほしい。